

平成26年10月17日

◎明神委員長 ただいまから、総務委員会を開会いたします。 (10時0分開会)

御報告いたします。中内委員から、所用のため、本日の委員会を欠席したい旨の連絡が  
あっております。また、浜田委員から、所用のため、少しおくれる旨の連絡が  
あっており  
ます。

本日の委員会の日程につきましては、お手元に配付してある日程によりたいと思  
います  
が、御異議ございませんか。

(異議なし)

◎明神委員長 御異議なしと認めます。

#### 《教育委員会》

◎明神委員長 それでは、教育委員会より1件の報告を行いたい旨の申し出があ  
って  
おりますので、これを受けることにいたします。

最初に、教育長の総括説明を求めます。なお、教育長に対する質疑は、高等  
学校  
課に対する質疑とあわせて行いたいと思  
います  
ので、御了承願います。

◎田村教育長 本日は県立高等学校再編振興計画に関する説明のために、臨時  
の  
総務委員会を開催していただきまして、まことにありがとうございます。

県立高等学校再編振興計画につきましては、先月12日から今月11日までの  
間、  
県民の皆様から広く御意見をいただくためのパブリックコメントを実施しま  
した。  
本日は、寄せられました御意見に対する考え方と、それを踏まえた計画の最  
終  
案を取りまとめましたので、高等学校課から説明をさせていただきます。

#### 〈高等学校課〉

◎明神委員長 続いて、所管課の説明を求めます。「県立高等学校再編振興  
計  
画について」、高等学校課の説明を求めます。

◎坂本高等学校課企画監兼再編振興室長 本日の報告事項としましては2  
点  
ございます。

1点目は、県立高等学校再編振興計画のパブリックコメントが終了しました  
の  
で、その結果の概要につきまして御説明させていただきます。2点目は、その  
パ  
ブリックコメントの結果を受けまして、再編振興計画の最終案について御  
報  
告させていただきます。

資料の1をごらんください。パブリックコメントの概要につきまして、10  
月  
7日の総務委員会で御報告させていただきました途中経過も含めまして、御  
説  
明させていただきます。募集期間は、9月12日から10月11日の30日  
間  
でございます。広報については、県のホームページに掲載しまして、あ  
わ  
せて、9月14日、日曜日の高知新聞の朝刊に広告を掲載しました。御  
意  
見の提出方法としては、電子メール、郵送、ファクスの3つでございます。  
閲  
覧場所としては、県民室、県福祉保健所、県須崎農業振興センター、県  
教  
育事務所、そ

れから各市町村の教育委員会となっております。いただいた御意見の総数としては、34名、それから3団体の方から、合わせて37通計89件となっております。いただいた御意見の趣旨によりまして、事務局のほうで7つに分類しております。

また、資料2では、1通で複数の御意見をいただいている場合もございます。そういった場合は、その趣旨に沿いまして分類整理させていただいて、右の欄に県教育委員会事務局としての考え方を記載しております。これは今まで14回にわたり重ねてきました教育委員協議会での協議、それから県議会で説明しました内容などを踏まえて、御意見に対する考え方をまとめたものです。

それでは、資料1と2をあわせてごらんいただきながら御説明させていただきます。資料1の2のいただいた御意見でございます1つ目の計画の基本的な考え方について、これまでの検証や総括が必要ではないかといった御意見をいただきました。詳しくは資料2をごらんください。その1ページの右にその御意見に対します考え方を記載しておりますが、平成23年度から再編振興検討委員会及び作業部会、それから教育問題検討委員会といった場で、これまでの再編計画の検証などを行ってきたところです。

それから、資料1の2の2つ目に、前期実施計画についての御意見が2件ございました。それから同じく3つ目として、津波のおそれがある安芸高校と安芸桜ヶ丘高校を統合し、津波浸水域外に移転すべきという御意見などをいただいております。これにつきましては、資料2の6ページをおあけください。下ほどの24番の右側に記載しておりますが、安芸高校につきましては、「南海トラフ地震への対応のため、適地への移転を検討する」とこととしておりまして、また、中芸高校、安芸高校、安芸桜ヶ丘高校の3校につきましては、「将来的なあり方を検討する必要がある」と本計画の中で記載しております。

それから資料1に戻りまして、4つ目でございます、高知南中学校・高校と高知西高校の統合について、合わせて49件の御意見をいただいております。これにつきましては、資料2の7ページ、28番から両校の統合につきましてはの御意見が続いております。28番の御意見としましては、1学年6学級の妥当性ですとか、次の8ページの34番にもございますような、学校がなくなるのが受け入れられないといった御意見もございます。そういった御意見の一方、資料2の13ページ、48番に御意見ございますように、少子化が進む中、避けられない南海大地震も含めての再編は実施していただきたい。また、50番では南海地震の安全対策、少子化による生徒の減少等、先々のことを考えると、今統合すべきという御意見、また、14ページの上から2つ目でございます、特色ある学校経営を進め、グローバル教育など選択肢のある高校をつくることは必要で、ぜひ進めていただきたい。高校の改革も時代に合わせて考えていく必要があるといった御意見もいただいております。

それから資料1の5つ目でございます、須崎工業高校と須崎高校の統合につきましては、資料2の69番でございます。そこに意見が2つございますが、南海地震や生徒数の減

少を考え、両校を早急に統合すべき。また、70番では十分な検討をすべきといった御意見をいただいております。これにつきましては、右側のほうで書いておりますように、高吾地区においては、生徒数の減少が続く中であっても、よりよい教育環境を保障できる適正規模の維持と震災に強い教育環境の整備に向けて、統合後の新たな学校が高吾地区の拠点校として期待に応える活気と魅力あふれる学校づくりに取り組んでいくこととしております。

それから資料1の6つ目でございます、統合後の校名の取り扱いにつきましては、意見としては5件。それから7つ目にあります、その他バリアフリーなどにつきましてはの意見が5件ということで、以上で、資料2の22ページの下を見ていただきましたら、合計で80件、同趣旨のものをまとめまして、89件を80件という整理をさせていただいております。

1点目の、いただきました意見の概要につきましては、以上で簡単ではございますが終わらせていただきまして、続きまして、再編計画の最終案を御説明させていただきたいと思っております。資料3と資料4で御説明させていただきます。最初に資料3のほうで、県立高等学校再編振興計画及び概要の変更点ということでまとめています。意見公募によります変更点としましては、1つございます。資料4の本編では、10ページの(5)の一番下のアンダーラインを引っ張っている部分です。ICT等のその後に「活用、新図書館との連携も視野に入れた、生徒の自主的な読書活動にふさわしい学校図書館の整備など」を今回つけ加えさせていただくこととしております。こういった視点を位置づけますことで、よりよい再編計画にしたいと考えております。

それから、資料3の2の事務局による修正箇所としては、内容が変更するわけではございませんが、よりわかりやすい表現に改めるという趣旨で句読点などを修正するのが主な内容となっております。

以上、パブリックコメントを行った後の計画案の修正点の説明を簡単ではございますが終わらせていただきます。

今後の予定ですが、来週22日火曜日午後1時半から、10月の定例教育委員会がございませう。その場で、高等学校課からの付議案件として、県立高等学校再編振興計画案につきまして、御審議をいただく予定となっております。

以上で、高等学校課の説明を終わらせていただきます。

◎明神委員長 それでは、質疑を行います。

◎坂本(茂)委員 まず聞いておきたいですけど、事前にもらったアンケートの考え方、資料2のどこが変わっていますか。ナンバリングが変わっているでしょう。変わったところを教えてください。

◎坂本高等学校課企画監兼再編振興室長 整理する中でかなり動いたところがございませうので、今これがここに移りましたというのは御説明ができかねます。

◎坂本（茂）委員 指摘するのに何ページと言うのが難しいかなと思うんですけども。そしたら先にやってください。

◎土森委員 いよいよ実施に移す準備ができて、スタートを切っていくことになります。高知県の教育環境・情勢を考えたときに、私高公低という長い間の歴史があります。そういう状況から公立高校が脱皮をしていく、負けないんだという環境が整いつつあります。大きな目標を持ってやろうということですから、問題は、文武両道を含めて子供たちにどういい教育をするか。絵にかいた餅にしてしまったら、計画が壊れることになりますので、相当強い意志を持って取り組みを進めていかないとだめだと思います。パブリックコメントをすると反対の方が多いう状況が今まであったんですが、賛成の方も随分おられる。これは、子供たちが成長していく過程の中で、それだけ県立高校に期待をしているということにもなると思いますので、そういうことを含めて、まずは教育長に取り組みに対する決意を聞いておきましょうか。

◎田村教育長 この計画が確定した後になると思いますけれども、これからの少子化の中で公立学校の役割はますます重くなる。地域でしっかりと高いレベルの教育や、進路を保障していくことが大変大事だと思っておりますし、新しいグローバル教育といったニーズについてもしっかりと対応していくことが大変重要だと思っております。特にグローバル教育といった新しい取り組みについては、我々としても相当しっかりと取り組んでいかないといけないと思っておりますので、準備も含めてしっかりとやっていきたいと思っております。

◎土森委員 今からは、教える側の質が問われてくると思います。前回の委員会で言いましたように、ここがしっかりしないと、子供たちが、学びたい、勉強したいという環境をいかにつくっていくかということは、やっぱり指導者です。教える先生方が、教えて楽しい、うれしいという環境をつくることは最も大事。それを仕組みとして作り上げていくのが、高知県教育委員会の仕事になってきます。両方、よかったなと言えるものをしていく。当然、先生方の資質の向上にも力を入れていく必要があろうと思いますが、その辺はどうですか。

◎田村教育長 教員の力を高めていくことは本当に重要だと思います。いろんな形の研修ももちろんやっていきたいと思っておりますし、例えば、教育力にすぐれたスーパーティーチャー的な方を招聘して、研修していただくことも考える必要があると思います。それから例えばグローバル教育ということ言えば、県内の人材だけでやっていけるのかという問題もありますので、必要な人材を獲得することもあわせて対応していかないといけないんじゃないかなと考えているところです。

◎土森委員 さっき私立学校の話をしましたけれど、土佐高校、高知学芸高校に追いつけ追い越せ、秋田県を上回るんだという気迫を見せることが大事だと思います。高いところ

を目指していかないと成長しません。こういうことをやっていく。いいものをつくろうとするなら、土佐高校にも高知学芸高校にも負けないんだ、その上で秋田県にも将来は勝つんだというかたい決意がないとだめだと思います。もう一度その辺を聞かせてください。

◎**田村教育長** 高校だけではないですけども、実は、きのう高知新聞にも出ていましたけれども、文部科学省の総括審議官で高知県出身の徳久さん、総合的な学習の時間を中心的に企画された奈須先生という上智大学の先生に来ていただいて、今後の高知県の教育のあり方的なことのお話を聞かせていただいているところです。特にこれまで学力テストの取り組みの中で、基礎的な学力については一定上がってきた。一方で思考力の問題について、なかなか上がっていかないとかいうような問題をどうしていったらいいんだろうか。あるいは、家庭的な事情があったりして低学力に悩む子供たちをどうやって引き上げていくんだということについてのお話を今進めているところです。きのうお話が出たのは、低学力の子供に対してそのレベルに合わせたような教育では決して上がっていかない。もっと高いレベルの目標を掲げて、そういうところを目指して教えることで、低い基礎的な学力も、逆についていくんだというお話もありましたので、なお、今後もいろいろとお話伺いながら、高知県がすぐには無理かもしれませんが、秋田県に負けない教育レベルに達する方向に持っていきたいと思っております。

◎**土森委員** 最後に。今、教育長が言われましたけれど、義務教育をしっかり。小学校は随分上がってきたけれど、中学校は足踏み。やはりここでしっかり教え込んでいくことが大事だと思います。義務教育をどのように今後も進めていくのか。当然のことながら今の教育基本計画そのものを進めていく必要もあるし、その上でなお、それ以上に力を入れていく。ここができてないと、小学校、中学校、高校と段階を踏んでいく。そして高知県の高校を卒業して、国公立の大学にどんどん入っていく。そういう1つのルート、システムは必要だと思いますが、義務教育についてどう考えていますか。

◎**田村教育長** 今申し上げたことは基本的に義務教育に通じるんですけども、あわせて、最近、小中だけじゃなくて幼稚園・保育所の段階からの一貫した育てが必要じゃないかと言われてます。特に保幼と小の連携、それから小中の連携、さらには中高の連携という形で、きちんと指導がつながっていくようなことをきちんとやっていかないといけないんじゃないかなと思っているところです。

◎**坂本（茂）委員** 事前にいただいたものと見比べたときに、例えば、資料2の最初のページの冒頭に、県立高等学校には基本的な生活習慣や社会性、学力など、生徒にしっかりと身につけさせるとともに、適性に応じた進路実現を支援していくことが求められていますと県立高等学校の役割が書かれてあったのですが、なくなっている。きょう出された資料には。一番肝になる、そういう県立高等学校の役割をなぜのけたのか。そこはどのようなことなのか。

◎田村教育長 意見のほうですか。

◎坂本（茂）委員 御意見に対する考え方です。私は、県立高等学校の役割としてそこが一番大事なこと。前は、それに加えて、これからの地域社会や産業を担う人材の育成に向けた役割も重要になってくるという書き方で始まっていたんです。そこは学校の役割として一番基本になるところだと思っていたんですが、きょう見たらそれがなくなっているんです。これは意図的になくしたのか。

◎坂本高等学校課企画監兼再編振興室長 お渡しした段階からかなり精査をいたしましたので、今言われるような意図的にのけたということはございません。どうしてかということに正確にはお答えしかねますが、文言整理をする中で、よりわかりやすい表現という意味で、こういう整理にさせていただきました。

◎坂本（茂）委員 よりわかりやすい表現というよりも、今回の高等学校再編振興計画が、グローバル人材の育成とかそういう方向性ばかりが念頭に置かれて、本来、県立高等学校が果たすべき役割の基本のところをないがしろにしているのではないかと、きょう配られた資料を見て思ったところなんです。そういうことのないように今後やっていただきたいと思いますが、そういう基本は変わってないということで、教育長よろしいですね。

◎田村教育長 本文は変わってないということで、そういうことは全く変わってないですが、結果として削除したのが、御意見に対して直接的なことをなるべく簡潔にという趣旨でのけたということだと思っております。御意見がそういったことに直接的に触れられてないので、考え方も直接的に関係ないことはできるだけ簡潔にという趣旨でのけたということではないかと思っています。内容が変わったわけではございません。

◎坂本（茂）委員 そういう意味で言ったら、公教育としての高校教育の保障の確認をする必要があるということを含めて、高校教育の役割は意見としてあるわけですから、基本はあっていいんじゃないかなと思います。

それともう一つ、今回パブリックコメントを踏まえた変更点が1カ所だけで、あとは事務局で文言修正なども含めた修正箇所ですけれど、なぜ変更したかという、そういう視点がかつとも再編振興計画の中になくて、それを補強してくれる意見だったので入れたということですが、そういう箇所はもっとほかにもあるんじゃないか。私も全部精査できているわけじゃないですけれども、例えば、5ページの15番に、防災教育の推進のことが書かれてありまして、16番には、原発事故の想定とその対応の視点が必要ではないかということがあって、それに対して、防災教育の推進と原子力災害への備えについて、「高知県原子力災害対策行動計画」に基づいて対応していくと書かれてあります。けれど、このことは、本文の中には入ってこないわけで、そういう視点がきちんと振興計画の中にあつたかというとなかつたわけで、今回それが指摘されて、じゃあ県がつくったものにとつて対応していくという考え方を示したわけですね。こういったところも補強される

べきではないのかなと思っているんですけど、とりわけ、学校において生徒児童に対してヨード液の配布をどうするのかとか、そういったことは、県の危機管理部や健康政策部と教育委員会がどう連携をとるかといったことも大事になってくるわけですから、きちんとしたい込んでおく必要があるんじゃないかなと思いますけども、いかがでしょうか。

◎坂本高等学校課企画監兼再編振興室長 今回、県立高等学校の再編の振興計画ということで、どこまでそういったことを含むかというところで整理させていただいたところですが、御意見も受けまして、今後再整理を検討させていただきます。

◎坂本（茂）委員 最後。20ページの72、73、74、75に出てくる統合後の校名等のあり方は、これまでも議会の中でもずっと答弁があつてますように、ここにも考え方書かれています。これから両校の関係者、県民の意見を聞いて慎重に議論をし、責任を持って決めるということですが、これまでも委員会の中で確認させていただいておりますが、あくまでも1つの新しい学校になる、両校については廃止されるということでの確認でよろしいですか。

◎坂本高等学校課企画監兼再編振興室長 前回、坂本委員から御質問のありました、校名を決めておる条例についての御意見ではないかと思いますが、前回御説明させていただいたのは、新しい中高一貫教育校の校名が変わるとすれば、現在の高知南高等学校、それから高知西高等学校と決めております両方の校名が削除されまして、新しい学校名になると御説明させていただきました。ただ、校名が仮に変わらなければ、どちらかの学校名が残り、変わるほうの校名が削除されるという手続になるのではないかと思います。それは条例上の取り扱いの御説明です。

◎坂本（茂）委員 そのこのところは、これまでとちょっと違うのじゃないですか。一緒ですかね。

◎坂本高等学校課企画監兼再編振興室長 これまでと同じ取り扱いでございます。

◎坂本（茂）委員 また議事録を調べてみます。

◎塚地委員 県立高等学校再編振興計画（案）の2ページの計画の基本的な考え方ところで、高知市への入学者の集中が1つの課題として挙げられていて、今回の再編は、高知県全体の高校教育をどうするかという視点で全体がつくられております。その中で、小規模の中山間地域の学校をいかに残していくかと、郡部高校もどう大事にするかという点での議論も随分深められていて、定員枠も融通のきくものに変えているという点で、その視点はこれからもすごく大事になっていくと思いますので、これからの環境整備ですとか、教員の配置ですとかという点については大いに努力もしていただきたいと思いますし、期待もしているところです。一方、学区を撤廃したことで高知市への集中がとめがたい状況になっているのではないかとこの点も懸念をしまして、今回出てきていた意見の中でも、学区の撤廃による影響が結構大きいのではないかとこの意見もあったと思います。そ

ここで、高知県教育委員会の御意見で、学区の撤廃でも選択肢が広がっているということにはなっていますけれど、高知市への集中という課題を高知県教育委員会としてどう位置づけて、その解決の方法を、どう計画の中に盛り込まれたのか、そこの考え方を伺っておきたいです。

◎藤中高等学校課長 御質問にありましたように、高知学区の撤廃を段階的に行い、全部撤廃されて3年目になりますけれども、この結果を分析した段階では、市内に学校数が多いございますので、一定の数が入ってきますけれども、それによって、高知市内の子供たちが過度に外に出されたといった実態はないと分析をしております。今後の計画につきましても、再編振興計画とは別に、平成27年度の入試からは、いろいろな中学校の状況も踏まえながら、全県一区に、3月のA日程という実質1回の試験で行っていくと。それまでにしっかりと学習をして試験を受け、それぞれが行きたい学校に進めていく。地域の学校に頑張っていく子供さんもいれば、こういったことで工業高校へ行きたいのでここへ行くといったお子さんも、今までのように、前期・後期の2回にわたってということではないので、しっかり進路指導も中学校でやっていただきながら行きたい学校へ行く、そういったところの入試制度も変えております。再編振興計画では、高知市内の周辺部の学校をよりしっかりとさせていきながら、中山間の小規模校であってもこういった進路保障ができるといったところを盛り込んでおります。再編振興計画と今までの制度をしっかりリンクさせながら、それぞれの地域で子供たちが育っていけると考えております。

◎塚地委員 地域の高校を守って育てていく、地域で根ざして子供たちが育っていくという視点はすごく大事な視点で、通学での保護者負担、本人負担も含めて困難が出てくるので、その点は本当に柱として重要視していただきたい。地元の学校で進路保障ができることを充実させていただきたい。ぜひそれはお願いしておきたいと思います。それにもかかわって、今回この中でも高知西高校に県立中学校をつくる、中高一貫教育校にしていくという問題はパブリックコメントをかけてくださっておりますけれども、県民・市民の皆さんの中ではその理解がまだ進んでいないというのが私の実感です。とりわけ、国際バカロレアに向かっていくということをここで明言されているんですけれども、国際バカロレアがどういうものかということ自体が全く県民の中には理解されていないです。それがどういうことを指している、そのカリキュラムがどれほど特殊で、その特殊なカリキュラムにどれほどの人材と予算がかかるのかということについても、浸透していないと思いますが、その御認識はどうでしょうか。

◎坂本高等学校課企画監兼再編振興室長 再編振興計画を決定するまで、両校の御意見をお聞きしながら進めてきたというところで、計画が決定した後に、こういった中高一貫教育校になるのかといったことですか、国際バカロレアの内容につきましても、広報なり人材育成なりを具体的に進めていく手続に入ることですので、言われますように、

県民の方がどこまでわかっているのかということ言えば、大方の方は深くはわかっていないと認識しております。これから広く広報をさせていただきたいと思っております。

◎塚地委員 今のお話は、多分逆だと思うんです。県民の皆さんが、こういう方向を理解して、それでいいとなって初めてこの計画に意味があるので、県民の皆さんが、まだよくわかってないけれども、教育委員会はこれをするんですよということでは、県民の声に根差した再編計画になるのかと思っております。この間、余り急がないでほしいと、何度か本会議でもお話もさせていただきましたけれども、まだ時期早尚なんじゃないか、もう少し県民の皆さんにも理解をしていただいて計画を前に進めるという手順でなければならなかったのではないかと改めて思っておりますので、それは私の意見として申し上げておきたいと思っております。各県の学校の状況を見ても、国際バカロレアをやる場合には、本当にそこに集中的な人的投資もしないといけない、予算の投資もしないといけない。そういうことを片方ずつくりながら、全県のバランスある発展がこの高知県教育委員会の予算措置、人員配置の中でできるのかという不安はまだ残っています。その点、教育長ありましたら。

◎田村教育長 説明不足じゃないかという点については、ある意味おっしゃるとおりだと思います。特に、皆さんが不安に思われているのが、本会議でも申し上げましたけれども、グローバルエリートをつくるような学校をつくっていくつもりじゃないかという危惧を持たれていると思いますけれども、決してそういうことではなくて、先ほど土森委員の御質問にもお答えしたんですけれども、これから本当に求められる学力として、学力テストというB問題になると思いますけれども、新たな課題を設定し、それをみずから解決していく能力であるとか、異文化の相手ともきちんとコミュニケーションをする能力であったり、これからの高知県の子供たちに、将来求められる能力をつけていくエッセンスのようなものが国際バカロレアではないかと思っております。そういうところを国際バカロレアによって、まず先導的に取り組んでもらって、その成果をほかの高校にも波及をさせていく考え方でございます。そここのところの我々の考え方をしっかりと御説明をしていくということで、御理解を賜っていきたいと思っております。

◎加藤委員 いろいろと県の行う施策、教育委員会の行う施策でパブリックコメントをやっていますけれども、これだけ多くの御意見が寄せられることは少ないだろうと思うんです。県民の皆さんの関心が非常に高い、今回の再編振興計画なんだと率直に感じます。89件の御意見、賛成・反対、それから御提案いろいろあるわけですけど、しっかりとお声としてあるんだなというのを認識できたんじゃないかと思っております。そのあたりはこのパブリックコメント全体を通してどのように感じていらっしゃいますか。

◎坂本高等学校課企画監兼再編振興室長 平成25年度に県が行いましたパブリックコメント、22件中11件で意見がなかったことを踏まえまして、言われるように、御意見は多かったんだと思います。県民の方の関心も高い案件ではなかったかなと思っております。こう

いった御意見、重く受けとめさせていただきまして、今後の取り組みに生かしていけるところは生かしていきたいと思っております。

◎加藤委員 それぞれ委員からもグローバル教育とか国際バカロレアのことが出ました。我々もそうですけれども、初めて聞いた言葉、なおかつカタカナということもあって、本当に御説明しても御説明してもなかなか浸透しづらいところはあると思うんです。わざわざメールを送る、郵送する、ファクスするのは結構行動を伴うことですので、この御意見の裏にはいろんな皆さんの思いがあって、形としてあらわれたのでさえこれだけあるということだと思えます。御説明も含めて関心が高いということをこれからもずっと思いながら、慎重に進めていただきたいと思います。

◎坂本（茂）委員 さっきの塚地議員の質問に関連するんですが、国際バカロレアの関係で教育長が答弁された部分で、今回の新しい統合高校で国際バカロレア認定コースをつかって、そこで得られた教育成果を全校へ広げていきたいと。全校でそういうことをやろうということになると、さっき言われた、高知県としてそれに伴う人材や、あるいは予算的なもの。例えば全部の学校は無理にしても、西でもやる、あるいは東部でもやる、そういうことまで将来的には考えられているということをお先ほど言われたのかどうか。

◎田村教育長 そういうことではございません。探求型の学習のノウハウを、例えば研修によってほかの教員にも身につけていただくとか、そういうことが中心になるのかなと思っております。

◎坂本（茂）委員 言われているグローバル的に思考ができて物事を探求して、さらには海外の人とも国際的に交流できる人権意識を育てたりとかいったことは、これからのすべての子供たちに必要なことであって、教育のあり方として、国際バカロレアコースでなければそれができないということではないと思うんです。きょうの新聞にもいじめの問題とかが出ていますけれども、そういったことのない人権意識とかをどうやって子供たちに培っていくのかという教育に、本当はこれからもっと力を入れていただくべきじゃないのかと思います。そのことはよろしく願いしておきたいと思えます。先ほど言われた、説明不足的なものがおっしゃるとおりだということで、今後、教育委員会でこの振興案が確認されたら、さらに地域などへも説明に行くというんですが、それを説明していく中で、例えばそういう教育のあり方、特に統合高校に限ってそういうことをやりながらということが、県民の理解がなかなか得られないという場合には、この振興計画についても見直すこともあり得るということですか。今の段階はまだ十分な説明ができてないわけですから。

◎田村教育長 計画自体は策定したわけですから、直ちに見直しということにはならないと思えます。ただ進めていき、いろんな形の御意見をいただく中で、部分的に、仮に支障が出てくれば、その部分の見直しは当然あるかと思えますけれども、御説明をする中で直ちに理解が得られないということをもって見直すことにはならないんじゃないかと思って

おります。そこはできるだけ御理解をいただくように誠意を尽くして説明をさせていただくということに尽きるんじゃないかなと思っております。

◎塚地委員 スーパーグローバルハイスクールは国の事業で、それなりの財政措置もあり、今のスーパーサイエンスハイスクールをやっている高知小津高校の先例もありますけれども、一般的な高校に若干専門性が入るとい程度ですけれども、国際バカロレアということになると、それは格段質の違う話になるわけです。国際バカロレアにするときの予算措置ですとか人的配置ですとか、どのような子供たちがそこに通うようになるのかとかいうことについて、私はここに書き込むのはまだ時期早尚じゃないかという思いを持ってるんです。どれほど特殊なものかということも、多分、県民の皆さんわかってないと思いますので、授業がどういうふうに行われるのかという点でいうと、スーパーグローバルハイスクールを目指しますよと、そういう教育にしますよというところまでは、一般的なことでもありますので、それはよしとしても、高知県が公立高校で国際バカロレア認定校をつくるのかという点については、まだまだ議論不足で、先ほど説明不足というお話もあったので、スーパーグローバルハイスクールをやって、その中でそういう方向を目指すということができてくれば、その時点で目指すという方向を打ち出すべきじゃないかと。ここはやっぱり時期早尚ではないかという思いを持っておりますけれども、その点はどうですか。

◎田村教育長 高い目標については早い段階で打ち出して取り組まないとなかなか物事は進まないのじゃないかなということが一つあると思います。それと、想定しておりますのが平成33年度ということで、今から7年後ですけれども、この7年間は長いようで、国際バカロレアの認定校になろうとすると余り長くないんです。今打ち出して、本当にそれに向かって取り組んでいかないと、正直、平成33年には間に合わないという問題もございますので、我々としては今の時期に打ち出しをさせていただきたいということです。

◎塚地委員 全国的に見ると、相当経験を積んだ高校が国際バカロレアにやっと認定される状況なので、7年間は決して短くない期間だと思います。けれども、それは、公立高校として県民が本当に望んでいるものなのかという点での検証が、まだできていないと思うんですよ。その点がない段階で本当に盛り込むべきものなのか。ここをつくるかどうかという問題は教育行政の中で与える影響が大きいので、もう少し丁寧さがあっていいんじゃないかと改めて申し上げておきたいと思います。

◎池脇委員 本県は少子高齢化が全国の進み方と比べて非常に速い速度で進んでいる状況です。しかも高知県は東西に長くて分散化している。こういうことが高知県の教育の質の均質化とか、あるいは発展について、今まで大きな壁になっていました。そういう状況の中で確実に子供たちの数が減ってきていることに対してどう対応していくのかということで、県全体のバランスをしっかりと考慮して、郡部の人口減少が非常に進んでいる地域における高校の存立をどうすればできるのかというような配慮に対しても大変考え抜かれて、

小規模校についても1学級であっても認めていこうという形で、本県の地理的環境をしっかりと把握した上で対応されている計画案になっているという点については評価をしたいと思います。地域で学校、特に高等学校がなくなることについては疲弊にも大変つながっていくということで、県民の皆さんの、特に地域の皆さん方から大変危惧をされておる声があったわけで、そういう声をしっかりと受けとめてのぎりぎりの対策をつくられておるなどということの御苦勞がよくわかります。一方、これは高知県の命題で、高校の学力の向上です。他県に比べて大変学力が低くなっている。それをどう向上させるのか。この20年来、そのことに向けて入試改革も行い、あるいは学科の改編も行い、あらゆる手だてを打ってきた。しかし、一つは、引っ張っていく学校が公立学校ではなかったんですね。高知追手前高校に期待をしておったけれども、その役には十分応え切れてなかった。それがやっと今、県下の公立高校を引っ張っていこうという力がついてきたかなど。しかし、高知追手前高校1校に任すわけにはいけない。高知小津高校もSSH等を取り入れて、理系の学校に進みたいという子供たちを伸ばしていく牽引力にさせようということでも力を入れてきた。高知西高校については、文系で特に語学系をやろうとしたけれども、中折れをしている状況の中で停滞が続いている。そういう中で、この3校をどう牽引力としてつくり上げるかということの一環として、グローバルの教育ということで、高知西高校の改編ということも考えられてきたのかなど。残念ながらSGHはとれなかったけれども、その先に、目標に持っていた国際バカロレアを目指すことによって、文系の子供たちの牽引力になる可能性は十分考えられる。総合力としての高知追手前高校と、理系の高知小津高校と、そして文系の新しい進学校という形が見えてきているなど感じられます。質の向上という。それから、地域における学校をなくさない、存続をさせるという、地域性を重視した学校の存在。この両方をバランスよくつくり上げようとしている意図が、今回の計画案の中で読み取ることができます。ただ、これはハードの問題とソフトの問題が絡み合うわけですが、特に教育の内容の問題で、大変危惧する一点があります。きょうの新聞にも出ておりましたが、文部科学省の発表があって、高校中途退学ですね。中途退学が高知県が日本一という汚名が出されました。学校が少なくなる。その少ない学校に入学した子供がさらに学校を去らなくちゃいけないという課題が、一方ではどんとなされたのではないかと。質を上げるといふことと退学者を出さないという難しい課題ですけれども、どうバランスをとって対処していくのか。これは再編計画ですから、そういうソフトの面には余り入りませんけれども、大きな課題としてあるということをごひ考えておいていただきたいなと思います。

それとあと、これからも新しい合併がさらに続いていかざるを得ないだろうということが予測されます。そうしますと、また今回のような合併にかかわるいろんな御意見が出てくると思いますので、今回の合併の課題をきちんと県民にわかる形でお答えをして説明を

しっかりしていかないと、次のそうした同じような課題に直面したときに、また同じことを言っているようでは、余り発展性がないわけです。今回その説明責任はしっかり果たしていただきたいと思います。

◎土森委員 最後に。さっき、学力とかそういうもの伸ばしていくという話をさせていただきました。一方、スポーツの世界ということも考える必要があると思うんです。今、野球にしても何にしても、全国大会でいい成績をおさめるのはほとんど私立学校です。ただ、きょう新聞に載っていましたが、高知東高校でレスリングの常石君という子供たちも出てきておりますが、私立学校に負けないようなスポーツに対しての意識ということも絶対必要だと思います。例えば中高一貫です。昔は野球にしても、甲子園へ県立高校で中村高校が行き、宿毛高校が行き、伊野商業高校が行き、最近では室戸高校が行きました。それ以降、ほとんどベスト4にも出てこないという状態です。私立学校でスポーツをさせるということになりますと、経済的な負担というのも物すごく大きいです。例えば、県立高校でスポーツを振興する、高めていくということも、学校教育の中で重要な問題じゃないかなと思います。そうなりますと、中高ということになると、6年間指導ができる。高校に野球だけじゃありません。2年半ではなかなかいいチームいい選手が出てこないということを指導者からよく聞くんです。ですから、中高ということは6年間、5年半ということになろうと思いますが、そんなことを考えると、いい指導者をいかに種目によって監督として置くか、学校再編を考えた場合に、重要な点が出てくるんじゃないか。今後その辺をどのように取り組むのか。

◎藤中高等学校課長 委員御指摘のように、今回の再編振興計画を考えるにしても、例えば、市内で6学級以上の規模を残すとか、それから4～8学級というのが適正であるという部分において、子供たちの切磋琢磨、一定の生徒数があることによっていろんな活動ができる、その一つとして部活動にしても一定の規模の、特に団体競技であるといったところは生徒が集まることによっていろいろと切磋琢磨ができる。中山間になれば、どうしても生徒数が少ないですので、団体競技は難しいけれども、逆に個人競技であるといったところは伸ばしていけることができる。今回のこういう再編振興計画を大きく出させていただく中において、高校で、それぞれが部活動といったものをどう伸ばしていくのかということも、人員配置とともに考えていかなければならないんじゃないか。そしてまた、中高一貫校という6年間において、子供たちを育てていくメリットを生かした人材の育成、あるいはそこへの適材適所の指導者の配置、そういったものも、具体的にこの計画が策定された以降、すべての学校での振興という部分を盛り込んでおりますので、そこでしっかりと考えて、全体の中で、子供たちが行った学校でこういうことができ、頑張っていける。そして、きょうの新聞でも、高知海洋高校の生徒さんが国体で1位になったなど、個人競技でございますけれども、頑張るところでは頑張って、あるいは須崎工業高校でまた柳川の

大会で優勝するといったいろんなところで頑張りを見せてくれていますので、底上げをしっかり支えていく人材と、学校の方向性というものをしっかり学校と検討しながら、スポーツ振興にも頑張っていきたいと思っています。

◎土森委員 ぜひ頑張ってくださいと思います。先ほど、池脇委員が本当に充実したいい意見を出していただいたと思います。基本計画ができれば、それに向けて真っすぐ進んでいくということです。いろんな意見があるにしても。そこで立ちどまっていたら計画は進みません。ぜひ計画どおりに力強い気持ちで進めて行ってほしいです。

◎明神委員長 質疑を終わります。

以上をもって、本日の委員会を閉会します。

(11時1分閉会)